

これからの時代に何を学べば成功するのか

藤原直哉の学びのカフェ@遠山郷 24年7月

「新生日本の国家ビジョン」21世紀の学校のイメージ 2005年9月より一部改訂

そして義務教育を過ぎて大体30歳までの教育と、その後の生涯教育については日本全体で本当に無数の試みが展開され、数多くのユニークな教育によって、実に多様な人材が社会に送り出され、まさに違いが強さにつながるような社会が生まれてくると思いますが、わたしの私案として、義務教育終了後、10年から15年ほど半分働き、半分学びながら通う21世紀の学校のイメージを書いてみたいと思います。その学校は資金的には3分の1は親の援助、3分の1は外部からの寄付、そして残り3分の1は自分たちでお金を稼ぐ（自給自足を含む）という形で運営されています。中心的な考え方として、30歳で一人前になることを目標にしており、それまでにプロフェッショナルとして自立できるための教育を行うことが最も大切なことになっています。同時にもし30歳を過ぎて転職や悩みを抱えて疲れてしまったような場合には、いつでも学校に戻って来ることができるような体制が整えられています。教育の柱は3本あって、生活、実習、そして座学です。さらにその中はそれぞれ次のように分かれています。

① 生活—日本文化

お茶・・・作法、食事、芸術

武道・・・体作り、精神統一、気の訓練

日本の哲学（神、仏、儒）・・・倫理、信仰、天地人の統合

② 実習

農作業・・・毎日農作業を行います

ものづくり・・・実際に工芸品や工業製品を製造します

販売・・・ものづくりと農作業で作った品物を販売します

③ 座学

実習関連科目

農作業に関して・・・生物、環境、健康

ものづくりに関して・・・理工学、品質管理

販売に関して・・・経営、金融、会計

教養科目

時事問題・・・さまざまな時事問題の理解

日本語・・・日本語使用の上達

組織のリーダーシップ・・・未来を創る方法

デジタル・リテラシー・・・人工知能、ブロックチェーン

外国語・・・英語、アジア各国語等

数学・・・数的論理

歴史・・・国史、世界史

法律・・・大陸法と英米法、憲法、契約

異文化交流・・・地理、旅行、ディベート

座学に関してはずいぶん科目が多いように見えますが、あくまでも実習をしていくなかで出てくる疑問や改善を行うためにどうすればよいかという問題意識で学ぶものです。ですから学問を学ぶための座学ではなく、本当に必要なことをコンパクトに学び、それを実習で試して腹で理解させるという考え方です。教養は文字どおりの教養で、特に今すぐ役に立つことはないかもしれませんが、知っていればどこかでとても役に立つというものです。もちろんそのなかの多く、特にリーダーシップやコンピュータや外国語は生活や実習のなかで具体的に問題が出てきますので、座学はそのまとめみたいなものです。これはあくまでもわたしの私案ですが、きっと日本全体に新しい学校を作ろうという機運が一気に盛り上がって、さまざまな教育が一斉に花開くときが近いうちに来るだろうと、わたしは思っています。